平成 28 年(2016 年)11 月 18 日
県民文化部 文化政策課
(課長)中坪 成海 (担当)高山 茂
電 話:026-235-7282(直通)
026-232-0111(代表)内線 2522
ＦＡＸ:026-235-7284
Ｅ－mail:bunka@pref.nagano.lg.jp

資料３

「信濃美術館整備基本構想（案）」のポイント

信濃美術館整備検討委員会から報告された「信濃美術館のあり方及び整備に関する基本方針」を踏まえ、具体化に当たっては、次の観点で整備を推進する。

新美術館の理念

○「人本位」で運営する開かれた美術館

・「物」としての美術作品を収集・展示するだけの場所ではなく、作品を作る人（芸術家）、見せる人（美術館員）、観る人（来館者）など、美術館に関わるあらゆる「人」を中心に捉え運営する
・広い県土を有する長野県の特性を踏まえ、地域へのアウトリーチ活動に力を入れる
・施設整備や運営に県民や関係者の意見を反映し、県民に身近な開かれた美術館として運営する

重点的な活動

《学習県への貢献》

○開かれた学びの場としての美術館

・年齢に関わらず、また、障がいのある方に配慮しつつ、誰もが学べる美術館教育プログラムを充実
・地域や学校へのアウトリーチ活動を展開

《全国一多い県内美術館の中核を担う》

○巡回展等の開催による連携・協働

・県内美術館と連携・協働した巡回展の開催や展覧会の共同企画
・教育プログラムの共同実施

○県内美術館の学芸員等の調査・研究活動の支援

・アート・ライブラリー（美術図書館）を県立長野図書館や県立歴史館等と連携して整備
・県内美術館の学芸員や大学の研究者・学生等の調査・研究活動を支援

《魅力ある美術館に向けて》

○信州ゆかりの現代作家の支援

・長野県出身の有力な現代作家を中心に個展やグループ展を継続的に開催

○テーマ性をもった美術作品の収集と展覧会企画

・長野県ならではの山岳風景や精神文化に焦点を当てる
・近現代美術の収集と企画展を通じて、「自然と人間」をめぐるテーマを今日的な視点で取り上げる

今後の進め方

○推進体制の強化

・準備に向けた県の組織体制の整備
・美術関係者や教育関係者、経済団体、観光関係者等による準備委員会を設置し、準備を進める
【検討事項】設計・施設整備、展覧会の開催・展示、コレクションポリシーの具体化、美術館教育プログラム・アウトリーチ活動、県内美術館との巡回展や展覧会の共同企画、観光との連携など集客戦略、職員体制、寄付募集の仕組み 等

○幅広い意見の反映と協働

・設計段階から意見交換やワークショップなどを行い、県民の参加・協働による県民の誇りとなる美術館づくりを進める
・県民や企業・団体等からの寄付や寄贈など、多くの方に応援してもらえる仕組みを検討

施設規模	延床面積は、東山魁夷館を含め 12,000 ㎡程度を基本に、基本設計を経て確定
建設事業費（概算）	【本 館 の 建 設】100 億円程度 【東山魁夷館の改修】 10 億円程度 試算に基づく概算事業費であり、基本設計を経て確定 ※美術品等の移転費用を除く。建設資材の価格変動等により、今後変動する可能性あり。
スケジュール	【本 館】平成 33 年度当初からの開館を目途にしつつ、基本設計を経て確定 【東山魁夷館】改修中は休館、開館時期は基本設計を経て確定

意見交換会における主な意見と「基本構想（案）」への反映状況

県民文化部 文化政策課

県政タウンミーティング（北信）：87 人、南信：25 名、東信：11 名、中信：21 名、美術関係者：11 名　合計：155 名

	意　見	基本構想（案）への反映状況	頁
コンセプト	○県立美術館にしかできない展示を企画すれば、全県から足を運んでもらえる。	展覧会の企画は、準備委員会で検討	12
	○ランドスケープ・ミュージアムを強調して、話題性のある美術館にしてほしい。	重要なコンセプトと認識 基本設計で実現に向け検討	2
	○海外からの観光客が、美術館・博物館に来るような集客を考えてほしい。	集客戦略として、準備委員会で検討	12
美術による学び	○子どもを対象にした教育プログラムを他の美術館でも提供できる仕組みを作れば、信濃美術館が全県的な存在になれる。	・誰もが学べる美術館教育プログラムの充実 ・学芸員による地域や学校へのアウトリーチ活動を展開	5
	○身近に美術品を鑑賞する機会や表現する場が必要。美術館のアウトリーチ活動に力を入れてほしい。美術が苦手な人向けのワークショップを県内各地で開催してほしい。		
県内美術館との連携	○南信地域の人が、長野の美術館に行くか問題。南信地域の美術館と連携した巡回展などの取組に力を入れてほしい。	県内美術館と連携・協働した巡回展の開催や展覧会の共同企画を実施	6
	○伊那あたりでも信濃美術館の展示が観られるようにしてほしい。		
	○自分の館には現代美術のスタッフがいないが、住民からは現代美術のニーズがある。自分のところでできない展覧会を信濃美術館と共同で企画できるとありがたい。		
	○県立美術館の多くは、調査・研究に充てる面積が十分確保できていない。美術館でフォローできない資料は他の美術館や歴史館、図書館等と連携して提供すればよい。今の時代はリサーチや文献研究が大切な時代。	アート・ライブラリーを県立長野図書館や県立歴史館等と連携して整備	6
	○県内各地の美術館は学芸員が不足しており、調査・研究に時間を割けない。信濃美術館の学芸員に支援してほしい。	学芸員の充実を含めた調査・研究を担う専門性の高いスタッフを配置	11
コレクション	○長野県出身の芸術家をコレクションポリシーとして大事にしてほしい。	コレクションポリシーの具体化は、準備委員会で検討	12
	○まだ評価を受けていない作家を発掘する仕組みを考えてほしい。		
展示室・収蔵庫	○美術館の本質的な部分にしっかりお金をかけてほしい。	・常設展示室を新設 ・全国規模の巡回展を誘致できる広さの展示室を設置 ・国宝や重要文化財の展示・管理に支障のない建物性能を確保 ・バックヤードの可視化は基本設計で検討	9
	○世界水準の美術作品の鑑賞ができる展示スペースが整備されることを期待している。		
	○大きな展覧会の際には、常設展示室を使えるように柔軟な使い方ができるとよい。		
	○収蔵品が 4,000 点もあるのに常設展示室がないのは残念。		
	○美術館の収蔵庫は展示室以上に大切である。		
	○文化財保護の砦の役割が美術館・博物館にはある。県民はバックヤードの厚みにお金を投資する。バックヤードの可視化を考えてほしい。		

	意　見	基本構想（案）への反映状況	頁
県民ギャラリー	○県民の作品を展示できる県民ギャラリーの充実は必要である。	・県民ギャラリーを新設 ・講堂、ワークショップ室・アトリエは多目的利用できる仕様	9
	○さまざまなことに使える貸しスペースを作ってほしい。		
	○広いスペースをお願いしたいが、使わない時のことも考えて検討してほしい。		
	○県民ギャラリーは、ワークショップ室やアトリエを含めてフレキシブルな空間として、教育関係の施設として美術館とは別棟にしてほしい。		
駐車場・アクセス	○駐車場は美術館の近くに確保し、料金はかからないようにしてほしい。	公園管理者である長野市と検討	8
	○駐車場がどこにあれば地域住民や来訪者にとってよいか考えてほしい。		
	○気軽に美術館に行けるように、駅から美術館行きのバスがあるとよい。	集客戦略として、準備委員会で検討	11
	○善光寺から美術館の場所が分かると人が流れるのではないか。	善光寺と城山公園の回遊性を高める周辺整備を実施	8
人材確保	○アートライブラリーには、専門的な知識を持ったライブラリアンが必要。	学芸員の充実を図るとともに、美術教育や調査・研究を担う専門性の高いスタッフを配置	11
	○優秀な学芸員が来てくれる体制づくりが不可欠。		
開館時期	○今の収蔵庫は目も当てられないほど悲惨な状態。一刻も早い信濃美術館の改築をお願いしたい。	施設の著しい老朽化から一刻も早い整備を進め、平成 33 年当初からの開館を目途にしつつ、基本設計を経て確定	11
	○東京オリンピックの翌年が善光寺御開帳。オリンピックから長野に注目が集まる機会になる 2021 年の開館を目指してほしい。		
県民参加	○設計段階でも意見交換会を開催してほしい。また、開館後も意見交換の場を設け、運営面の課題を探ってほしい。	設計段階からワークショップ等を行い、広く県民の意見を反映	12
	○県民からの寄付を募ったらどうか。なるべく大勢の人に応援してもらうことが大切。	寄付募集の仕組みは、準備委員会で検討	

信濃美術館の今後のあり方及び整備に関する基本方針の概要（平成28年9月12日報告）

経緯・現状

- ○ 昭和41年10月 開館（49年経過）
  昭和44年６月 長野県に移管
  平成２年４月 東山魁夷館 開館
- ○ 管理運営：長野県文化振興事業団
  ※ H18.4月～指定管理
  館長以下 14名体制
  ※ うち学芸員７名（正規２名）
- ○ 収蔵品数 5,000点（うち本館4,032点）
- ○ 入館者数 13万７千人（H26）
  ※ ピークはH２年の45万８千人

主な課題

- ○ 善光寺に隣接する有利な立地条件を、集客につなげられていない。
  ※善光寺の来訪者：年間約600万人
  美術館の入館者：年間約17万人（過去5年）
  ※H27御開帳 に707万人が来訪
  この期間の入館者は３万３千人
- ○ 老朽化が著しく、狭隘でバリアフリー化も遅れているため、幅広い年代層に美術に親しむ機会を十分提供できていない。
- ○ 全国一の数を誇る県内 105館の美術館の中核を担える体制になく、信州の多様な文化芸術の魅力を十分に発信できていない。
- ○ 学芸員が不足しており、他の美術館の支援や調査研究等を十分に行い得ない。
  ※H10以降開設の延床面積１万㎡以上の県立美術館の平均11人（正規９人）
- ○ 展示室が狭く、大規模企画展の開催が困難。また、老朽化等により、貴重な美術品の管理に支障を来すおそれがある。
- ○ 信州ゆかりの貴重な収蔵作品の展示の機会を十分に確保できていない。

コンセプト

ランドスケープ・ミュージアム

国宝・善光寺や東山魁夷館、信州の自然・山並みと調和し、一体化した美術館

- ○ 優れた芸術作品を国宝・善光寺、庭園、信州の自然美とともに楽しむ機会を提供
- ○ 誰もが気軽に集い、憩えるパブリックスペースを提供

美術による学びの支援

- ○ 子どもからお年寄りまで、美術に親しみ、楽しみながら感性を磨き、様々な才能を伸ばす機会を提供
- ○ 小中高校生や大学生に美術から学ぶ機会を提供
- ○ 信州ゆかりの芸術家や地域の芸術活動を支援

信州と世界の交流ステージ

国内外の人々が集い、信州の魅力を発信する文化・観光の一大拠点

信州の地域文化の多様性を活かす

- ○ 信州の多様な地域文化をネットワーク化して紹介
- ○ 県内の美術館ネットワークの中核を担い、信濃美術館収蔵品の巡回展など連携・協働の取組を推進
- ○ 県内美術館の紹介など文化芸術に関する情報を収集・発信。調査・研究など県内の学芸員の活動を支援

世界水準の作品展示と信州芸術の紹介

- ○ 国宝・重文級の作品や世界的にも著名な作品など世界水準の芸術作品の鑑賞機会を提供。全国規模の巡回展の企画・開催
- ○ 郷土の芸術家の紹介、信州ゆかりの芸術家の育成支援・国際交流の促進
- ○ 将来性ある芸術家の作品など「進化・成長する美術館」をめざしての作品収集

施設整備の考え方

立地条件を活かした整備

- 周辺の山並みや自然美と調和するランドスケープ・ミュージアム
- 善光寺東庭園と城山公園の回遊性を高めるために周辺を整備
- 新県立美術館と市道に囲まれた城山公園は、共通のコンセプトに基づき一体的に整備

既存施設との関係

- 信濃美術館の管理棟・展示棟は全面改築
- 改築部分と東山魁夷館は、機能性や利便性から接続し、施設を共用化

施設の配置

- 城山公園内に配置
- 施設配置や公園を含めた周辺整備は長野市や善光寺との協議を踏まえ、設計において調整

施設の規模・性能

- 東山魁夷館を含めて延床面積12,000㎡程度を基本に設計において調整
- 国宝や重要文化財の展示や保管に支障のない性能

設計者の選定

- プロポーザルを基本とし、長野県の気候風土への配慮を条件化
- 選定方法のﾒﾘｯﾄ･ﾃﾞﾒﾘｯﾄを整理し、国や他県の調査研究を進め、さらに検討

運営の考え方

安定した運営体制

- 長期的な展望、継続性を持った責任ある運営や専門性の高いスタッフの育成が行える体制（長期の指定管理者制度の導入等）

スタッフの充実

- 学芸員等の充実

信濃美術館整備基本構想（案）

平成 28 年 11 月

長　　野　　県

目　次

第１章　基本的な考え方

１－１　信濃美術館整備の必要性 ･････････････････････ １

１－２　新美術館の理念 ･････････････････････････････ １

１－３　新美術館のコンセプトと目指す姿 ･････････････ １

（１）ランドスケープ・ミュージアム ･････････････････ ２

（２）美術による学びの支援 ･････････････････････････ ２

（３）信州の地域文化の多様性を活かす ･･････････････ ４

（４）世界水準の美術作品の展示と信州美術の紹介 ･････ ５

１－４　コンセプト実現のための活動の重点 ･････････････ ５

（１）開かれた学びの場としての美術館 ･･････････････ ５

（２）巡回展等の開催による連携・協働 ･･････････････ ６

（３）県内美術館の学芸員等の調査・研究活動の支援 ･････ ６

（４）信州ゆかりの現代作家の支援 ･･････････････････ ６

（５）テーマ性をもった美術作品の収集と展覧会企画 ･････ ６

第２章　施設整備

２－１　施設整備方針 ･････････････････････････････････ ７

（１）施設の配置及び既存施設との関係 ･･････････････ ７

（２）立地条件を活かした整備 ･･････････････････････ ８

（３）県民に親しまれ永く利用されることに配慮した整備 ････ ９

２－２　施設の概要 ･････････････････････････････････ ９

（１）施設の規模及び機能等 ･････････････････････････ ９

（２）整備手法 ･･････････････････････････････････ 10

２－３　建設事業費 ･････････････････････････････････ 10

２－４　スケジュール ･･･････････････････････････････ 11

第３章　運営

３－１　運営体制 ･･･････････････････････････････････ 11

３－２　スタッフの充実 ･････････････････････････････ 11

３－３　関係機関等との連携・協働 ･･････････････････ 11

３－４　運営面での収入確保 ･････････････････････････ 11

第４章　目指す姿に向けて今後取り組む課題

４－１　集客戦略 ･･･････････････････････････････････ 11

４－２　ネットワークづくり ･････････････････････････ 12

第５章　今後の進め方

５－１　推進体制の強化 ･････････････････････････････ 12

５－２　幅広い意見の反映と協働 ･････････････････････ 12

参考資料 ･･･ S-1～S4

第１章　基本的な考え方

１－１　信濃美術館整備の必要性

信濃美術館は、善光寺に隣接する城山公園に「長野県に美術館をたてよう」との県民の声を受けて、昭和 41 年に財団法人として発足し、同 44 年に県に移管されて以来、平成２年に併設した東山魁夷館とともに、長野県唯一の県立美術館として、本県の芸術文化の中心的な役割を担ってきた。

しかしながら、開館から 50 年が経過する中で、本館は著しい老朽化に加え、抜本的なバリアフリー化が難しい構造のため、部分改修では対応できない状況になっている。

また、展示室が展覧会の大型化・多様化に対応できないこと、学びや交流の場としての機能やスペースが十分でないこと、ライブラリーなどの情報提供のための施設が十分でないこと等の課題を抱えており、県民の美術館に対する多様な要望に応えることが難しくなっている。

このため、信濃美術館を整備し、本県が保有する貴重な美術作品を次代に引き継ぎ、県民が国内外の優れた美術に触れる機会を増やし、本県の文化振興の拠点として文化的創造性と文化的魅力を向上させる。

１－２　新美術館の理念

美術館は、作品を作る人（芸術家）、見せる人（美術館員）、観る人（来館者）の三者の協働によって初めて成り立つ場所である。

整備後の信濃美術館（以下、「新美術館」という。）は、「物」としての美術作品を収集・展示するだけの場所ではなく、県民のみならず全国・世界からの来館者、作品を作りだす芸術家、それを支える美術館員や団体・企業等の支援者を含め美術館に関わるあらゆる「人」を中心に据え、とりわけ利用される方のさまざまな来館目的や動機を念頭に置いて「人本位」で運営する。

また、広い県土を有する本県の特性を踏まえ、県民誰もが新美術館を身近に感じることができるように、地域へのアウトリーチ活動[1]に力を入れるとともに、施設整備や運営に県民や関係者の意見を反映し、県民に身近な開かれた美術館として運営する。

１－３　新美術館のコンセプトと目指す姿

新美術館は４つのコンセプトに基づき、県立美術館が果たすべき役割･機能を備え、県民の誇りである「信州の四季折々の豊かな自然」や「地域ごとに異なる気候風土を

[1] 地域や学校など美術館の外に出かけていき、出張展示や出前講座などの美術館活動を行うこと。

背景に培われた文化芸術」を国内外に発信することにより、文化・観光の一大拠点として「信州と世界の交流ステージ」を目指す。

（１）コンセプト1 ランドスケープ・ミュージアム

国宝・善光寺に隣接し、自然景観に恵まれた城山公園内に位置する立地条件を活かし、信州の山並みや善光寺門前のまち並み等と一体化した文化的な空間・美しい景観を創造する風景画のような美術館とする。

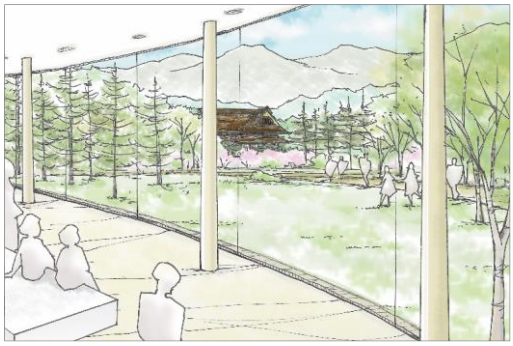
【役割・機能】

① 優れた美術作品を国宝・善光寺、庭園、信州の自然美とともに楽しむ機会を提供

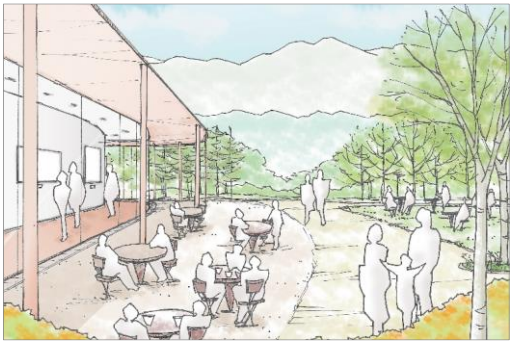
- 善光寺との回遊性を高め、人々が自然と行き来できる
- 周辺環境と調和し、それ自体が美しくかつ機能的な美術館として地域のシンボリックな存在となる
- 信州の自然や山並みを絵のように楽しめる

② 誰もが気軽に集い、憩えるパブリックスペースを提供

- オープンスペースで誰でも自由に休憩し、交流できる
- 芸術文化や観光など信州の魅力に関する情報を入手できる
- 幼児、高齢者や障がいのある方も不自由なく利用できる
- インバウンド[2]対応が十分に図られ、外国人観光客が心地よく利用できる



美術館から見た風景（イメージ）



美術館で集い憩う様子（イメージ）

（２）コンセプト2 美術による学びの支援

美術による学びの場や研究・交流の場を提供し、県民が美術に親しみ、楽しみながら感性を磨き、豊かな心を育むとともに、自らの隠れた才能を発見・開発する機会を提供する美術館とする。

また、「美術による学びの支援」に関しては、県内各地域の美術館等との連携

[2] 外国人が訪れる旅行のこと。

を重視し、共同プログラムの開発やアウトリーチ活動など幅広い協働や支援を行う。

【役割・機能】

① 美術に親しみ、楽しむ機会の提供

- 美術に触れることを通じて、感性や創造性を伸ばし、人生をより豊かにする機会を提供する
- 子どもたちが親子一緒に芸術作品に触れたり、創作体験ができる場を提供する
- 生涯学習の機会としての芸術鑑賞や自らの作品を発表する場を提供する

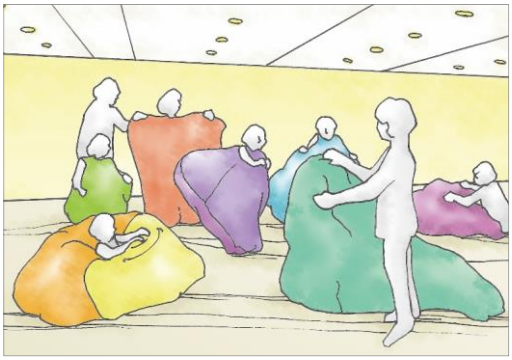
② 美術を学ぶ機会の提供

- 未就学児のための美術に親しむ機会を提供する
- 小・中・高校生の美術教育のための芸術鑑賞や体験プログラムの場を提供する
- 美術を学ぶ大学生・大学院生等の学習・研究の場を提供する
- 障がいのある方が美術に親しみ、学び、才能を発揮する機会を提供する

③ 信州ゆかりの芸術家や地域の芸術活動の支援

- 今後活躍が期待される若手芸術家をはじめ、信州ゆかりの芸術家に創作活動や発表の場を提供する
- 県内のアーティスト・イン・レジデンス[3]による制作作品の展示やワークショップ[4]等を支援し、さまざまなジャンルの芸術家・学芸員・来館者が交流し、互いに刺激し合える場を提供する
- 地域の文化資源を活かした芸術活動（工芸を含む）の振興と産業化に向けた取組を支援する

未就学児の鑑賞教育（写真提供：大原美術館）



若手芸術家によるワークショップ（イメージ）

[3] 芸術家を招へいして、その土地に滞在しながら作品を制作してもらう活動のこと。

[4] 専門家の助言を受けつつ、参加者が積極的に意見交換を行いながら、共同で制作や研究を行う場や活動のこと。

（３）コンセプト3 信州の地域文化の多様性を活かす

信州の各地域の文化の多様性を活かすため、全国一の数を誇る県内美術館[5]のネットワークの中核を担い、巡回展等の連携・協働の取組、人材育成、情報発信、調査・研究等を支援する美術館とする。また、その成果を各地域に広めていく。

【役割・機能】

① 信州の多様な地域文化をネットワーク化して紹介

- 安曇野アートライン、八ヶ岳諏訪湖アート＆ミュージアムなどの取組[6]に関する情報を紹介する
- 信州の地域文化を代表する美術作品等（工芸品を含む）を展示・紹介する

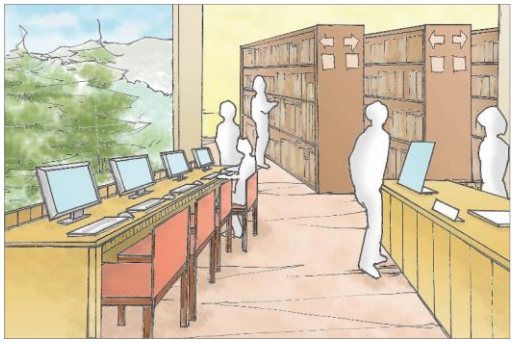
② 県内美術館や学芸員の活動の支援

- 県内美術館・博物館との共同企画や巡回展などの連携・協働の取組を推進する
- 学芸員の資質向上につながる研修や国内外の芸術家等との交流の機会を提供する
- 県内美術館が行う地域づくり活動などの取組を支援する

③ 文化芸術に関する情報の収集・発信と調査・研究

- 文化芸術に関する最新情報など企画展やイベント等に必要な情報・資料の収集・提供を行う
- 県内美術館の収蔵品や企画展やイベント等の情報をインターネット等で配信する
- 県立歴史館、県立長野図書館と連携して、信州の文化芸術に関する調査・研究・発信を推進する
- クリエイティブな人材が国内外から集まり、互いに高め合うための場を創出し、芸術文化活動のハブ[7]になる

学芸員を対象とした研修会



学芸員などが利用するアート･ライブラリー（イメージ）

---

5 都道府県別美術博物館数 長野県：105 館（平成 23 年度社会教育調査）

6 地域の美術館ネットワーク。県内には善光寺平アートライン、安曇野アートライン、軽井沢美術館協議会、八ヶ岳諏訪湖アート＆ミュージアムがある。

7 中心、中核のこと。

（４）コンセプト４ 世界水準の美術作品の展示と信州美術の紹介

世界水準の美術作品を鑑賞できる企画展を開催するとともに、広く郷土の芸術家やその作品を紹介する美術館とする。

【役割・機能】

① 優れた芸術作品の鑑賞機会の提供

- 国宝、重要文化財級の作品や世界的に第一級の芸術作品を鑑賞する機会を提供する
- 多くの人が楽しめる水準の高い巡回展等を企画立案し、開催する

② 郷土の芸術家の紹介、信州ゆかりの芸術家の育成支援・国際交流の促進

- 信州ゆかりの美術作品を収集・展示し、郷土の芸術家を国内外に紹介する
- 信州ゆかりの新進作家を国内外に紹介するとともに、国内外の芸術家等と交流する機会を提供する

③ 時代の関心に応え、時代とともに歩む「進化・成長する美術館」を目指した作品収集（コレクションポリシー）

- 信州ゆかりの芸術家を中心とした優れた近現代美術の作品を収集する
- 優れた山岳風景や精神文化に通じる作品を収集する
- 「自然と人間」をテーマとした優れた近現代美術の作品を収集する
- 日本及び海外における近現代作家の優れた作品を収集する

１－４　コンセプト実現のための活動の重点

県立美術館が果たすべき多岐にわたる使命を遂行しつつ、特に次の点に力を入れて取り組む。これらの活動の展開に際しては、県内美術館をはじめとする県内文化施設との連携や協働を図っていく。

<<学習県への貢献>>

（１）開かれた学びの場としての美術館

未就学児から小・中・高校生、大学生や社会人まで年齢を問わず、また、障がいのある方に配慮しつつ、誰もが学べる美術館教育プログラムや生涯学習プログラムの充実を図り、ＩＣＴ（情報通信技術）など新たな手法を取り入れながら、美術館から地域や学校へのアウトリーチ活動を展開する。そのためのスタッフを配置し、またボランティア・スタッフの養成等により地域との密接なコミュニケーションを図る。

<<全国一多い県内美術館の中核を担う>>

（２）巡回展等の開催による連携・協働

長野県はこれまで、各地域がそれぞれの文化芸術を大切に守り育ててきた。そうした文化の多様性を長野県の創造力の最も重要な推進源と捉え、県内美術館と連携・協働した巡回展の開催や展覧会の共同企画、教育プログラムの共同実施などを通じて、その成果を各地域に広めていく。

（３）県内美術館の学芸員等の調査・研究活動の支援

美術展カタログをはじめ関連する図書資料等が閲覧できるアート・ライブラリー（美術図書館）を県立長野図書館や県立歴史館等と連携して整備し、蔵書をインターネットで検索できるようにすることにより、県内美術館の学芸員や大学の研究者・学生等の調査・研究活動を支援するとともに、一般来館者にも開放する。

<<美術館の魅力に向けて>>

（４）信州ゆかりの現代作家の支援

長野県は、若手からベテランまで有力な現代作家を多数輩出しており、こうした作家を中心に個展やグループ展を継続して開催することにより、信州ゆかりの現代作家を支援するとともに、現代作家と来館者の交流の場を設ける。

（５）テーマ性をもった美術作品の収集と展覧会企画

多様な地域文化を織りなす長野県ならではの山岳風景や精神文化に焦点を当てるとともに、近現代美術の収集と企画展を通じて、現代における「自然と人間」をめぐるさまざまなテーマや問題を今日的視点から取り上げる。

第２章　施設整備

２－１　施設整備方針

（１）　施設の配置及び既存施設との関係

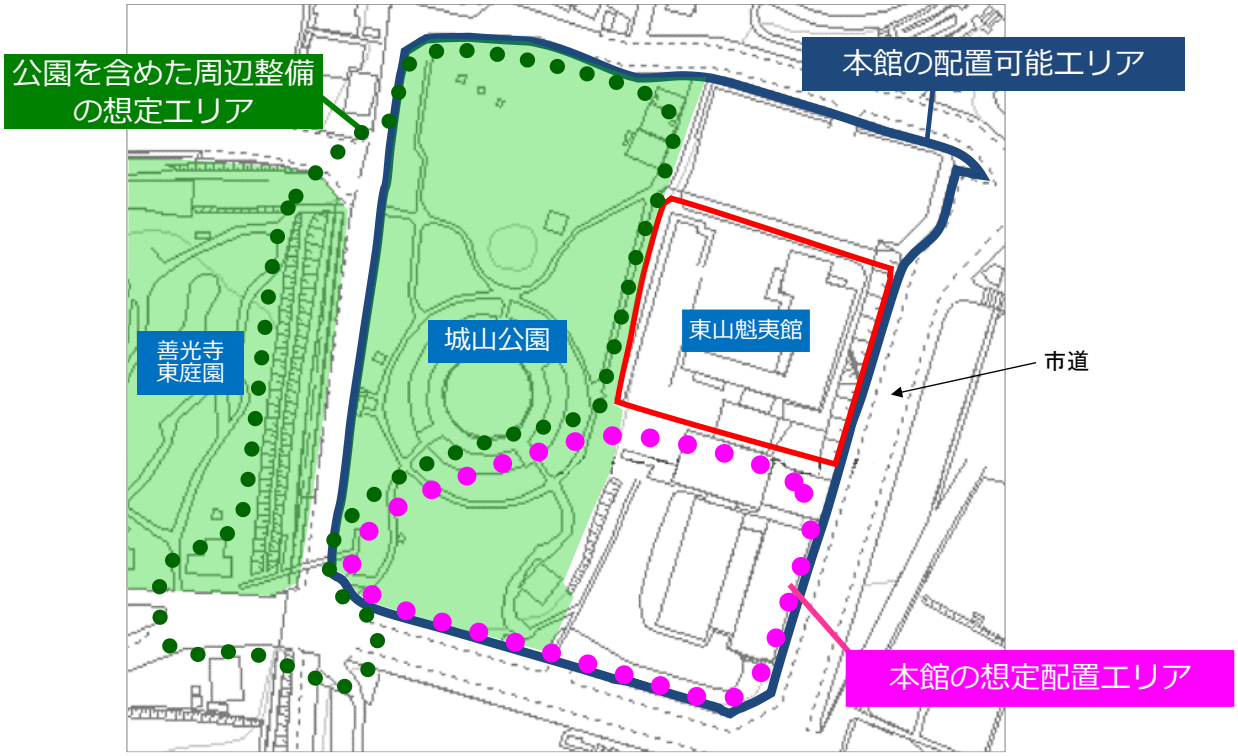
① 施設の配置エリアは長野市城山公園内とし、本館（管理棟、展示棟）は全面改築する。

なお、正面部分（ファサード）の記録・保存や活用については設計において調整する。

② 東山魁夷館は老朽化した設備改修、必要な機能改善及び本館との共用化を考慮した改修を行う。

③ 東山魁夷館と本館は、機能性や利便性の面から一体の美術館として接続させる。接続に当たっては、東山魁夷館との外観を含めた調和、東山魁夷館の利便性の維持・向上を踏まえた動線確保に配慮する。

④ 本館の公園内の配置や駐車場・公園を含めた周辺整備は、長野市や善光寺との協議を踏まえ、設計において調整する。

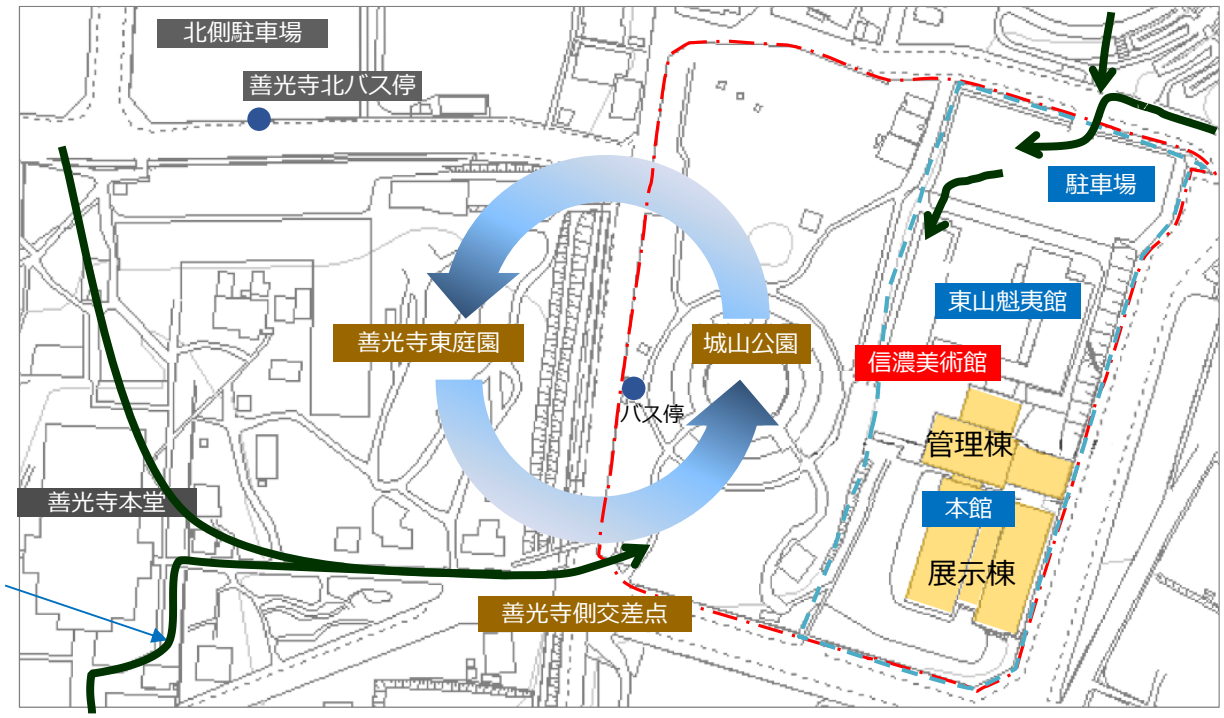


（２） 立地条件を活かした整備

① 周辺の山並みや自然美と調和するランドスケープに配慮した美術館とする。

② 善光寺東庭園と城山公園の回遊性を高めるために周辺整備を行う。

③ 新美術館と市道に囲まれた城山公園は、共通のコンセプトに基づき一体的に整備する。



（３） 県民に親しまれ永く利用されることに配慮した整備

① 幼児、高齢者や障がいのある方、外国人観光客など誰もが利用しやすいユニバーサルデザイン[8]に配慮（エレベーター・スロープ・多目的トイレ等の設置、誰にでも分りやすい案内表示　等）

② 車いす使用者及び歩行困難な方のための駐車区画を設置

③ 維持管理費を節減できるよう、省エネルギーやライフサイクルコストに配慮

④ 県産材など信州産の材料や調度品の活用に配慮し、信州の魅力を発信

⑤ 人命の安全確保はもとより、作品に被害が及ばないよう、地震や水害への対策とともに公園一帯が長野市の広域避難場所となっていることから、防災面の機能にも配慮

２－２　施設の概要

（１） 施設の規模及び機能等

① 新美術館のコンセプトを実現できる施設として、延床面積は東山魁夷館を含め 12,000 ㎡程度を基本に、部門ごとの面積を含め基本設計を経て確定する。

② 展示部門及び収蔵部門は、国宝や重要文化財の展示・保管や美術品政府補償制度[9]の適用に支障のない、国際基準に準拠した建物性能を確保する。

③ 教育部門として、県民が美術に親しみ、楽しむ機会を得られるように、県民ギャラリー（貸しスペース）、講堂、ワークショップ室・アトリエを設ける。なお、各室はさまざまな利用形態に対応可能な多目的仕様とする。

④ 調査研究部門として、信州の地域文化の多様性を活かして、文化芸術に関する情報の収集・発信と調査・研究の拠点となるアート・ライブラリーを設ける。

⑤ サービス部門として、東山魁夷館を含め、カフェ１か所、ショップ２か所を設ける。また、文化芸術や観光情報の収集や誰もが気軽に集い、憩えるパブリックスペースを設ける。

⑥ 各部門・諸室の関連を重視し、利用者に分りやすく、管理上も効率的な配置とする。

⑦ 利用者に開かれた部分と美術作品を守る部分を確実に両立できるよう利用者の動線と美術作品の動線が交差しないように配慮する。

---

8 文化・言語・国籍の違い、老若男女の差異、障がい・能力の如何を問わずに利用できること。

9 展覧会のために海外等から借り受けた美術品に損害が生じた場合に、その損害を政府が補償する制度。

【部門ごとの延床面積の概数】

部　　門	延床面積（㎡）			主な施設
		本館	東山魁夷館	
展　　示	2,800	2,300	500	常設展示室 1,000 ㎡、企画展示室 1,500 ㎡、バックヤード
収　　蔵	2,500	2,200	300	収蔵庫 1,500 ㎡、一時保管庫、荷解室、トラックヤード、撮影室、生物対策室、修復室、備品保管庫
教　　育	1,400	1,300	100	県民ギャラリー500 ㎡、講堂 300 ㎡、ワークショップ室・アトリエ 200 ㎡、こども広場、託児室、授乳室、救護室、サポーター室、打合室
調査研究	400	300	100	アート・ライブラリー、研究室
サービス	1,300	900	400	エントランス、ロビー、ラウンジ、カフェ、ショップ
管理・共用	3,600	3,000	600	管理（事務室、会議室、機械室） 共用（トイレ、廊下）
合　　計	12,000	10,000	2,000	

（参考）現在の延床面積 4,794 ㎡（本館：3,096 ㎡、東山魁夷館：1,698 ㎡）

（２） 整備手法

城山公園との一体的な整備、東山魁夷館との調和や接続等に関する設計条件の考慮が必要であることを踏まえ、設計段階で発注者及び公園管理者の細かな意見や要望を反映できるプロポーザル方式により設計者を選定する。

なお、設計者を選定する際、長野県の気候風土への配慮を条件とする。

２－３　建設事業費（概算）

本館の建設　１００億円程度
東山魁夷館の改修　１０億円程度
} 試算に基づく概算事業費であり、基本設計を経て確定する。

※ 美術品等移転費用を除く。

※ 建設資材の価格変動等により、今後変動する可能性がある。

なお、建設に当たっては、県民や企業・団体からの寄付など、多くの方に応援してもらえる仕組みを検討する。

２－４　スケジュール

本館は、平成３３年度当初からの開館を目途にしつつ、基本設計を経て確定する。

東山魁夷館は、改修中休館し、改修後の開館時期は基本設計を経て確定する。

第３章　運営

３－１　運営体制

効率的・効果的な管理運営及び計画的な展覧会準備など長期的な展望に立った責任ある運営を行うため、長期の指定管理者制度の導入を検討する。

３－２　スタッフの充実

コンセプトの実現に向けて、スタッフの充実は不可欠であり、展示・収蔵を担当する学芸員の充実を図るとともに、新美術館における活動の重点である美術館教育や調査・研究を担う専門性の高いスタッフを配置する。

３－３　関係機関等との連携・協働

① 県内の小・中・高・特別支援学校及び新たに開学する長野県立大学（仮称）はじめ県内大学など、教育機関との連携を図る。

② 県内の美術館や博物館、図書館など、文化施設との連携を図る。

③ 善光寺や門前のまちづくり活動との連携を図る。

④ ボランティアやＮＰＯなど外部人材と積極的に協働する。

３－４　運営面での収入確保

観覧料収入や図録等の販売収入等の増収と、国や関係機関・団体等からの補助や助成の活用、企業・団体等からの寄付や協賛、広告収入の確保に努める。

第４章　目指す姿に向けて今後取り組む課題

４－１　集客戦略

より多くの方に美術館に訪れていただくために、集客につながる取り組みに力を入れる。

① 城山公園全体のグランドデザインの検討に県も積極的に参加し、公園及び美術館を活かしたまちづくりに長野市と協力して取り組む。

② バスや鉄道などの公共交通を利用した美術館へのアクセスを検討する。
③ 美術館までのアクセスルートにおける案内表示の改善に取り組む。
④ 県が進める観光振興の施策に美術館の取り組みを位置づけるとともに、旅行会社等とタイアップした観光商品の造成を推進する。

４－２　ネットワークづくり

県外及び海外の美術館との共同企画展や巡回展の開催、交流などを通じて顔の見える関係を構築する。

① 県外の美術館と県域を越えた連携を図る。
② 海外の美術館との交流や連携を図る。

第５章　今後の進め方

５－１　推進体制の強化

準備に向けた県の組織体制を整備するとともに、美術関係者や教育関係者、経済団体、観光関係者、協賛者などによる準備委員会を設置し、次の事項について具体的な準備を進める。なお、個々の検討は専門部会を設置して検討する。

【検討事項】
○新美術館の設計及び施設設備に関すること
○展覧会の開催・展示やコレクションポリシーの具体化に関すること
○美術教育プログラムやアウトリーチ活動に関すること
○県内美術館との巡回展や展覧会の共同企画などネットワークに関すること
○観光との連携など集客戦略にすること
○職員体制や寄付募集の仕組みなど管理運営に関すること

５－２　幅広い意見の反映と協働

設計段階から意見交換やワークショップなどを行い、広く県民の参加・協働による長野県らしい、県民の誇りとなる美術館づくりを進める。

また、県民や企業・団体等からの寄付や寄贈など、多くの方に応援してもらえる仕組みを検討し、理解と協力を得ながら進める。

【参考資料】

〈経緯と現状〉

信濃美術館（本館）	東山魁夷館
○ 昭和 41 年 10 月 1 日開館（50 年経過） ○ 昭和 44 年　6 月　長野県に移管 ○ 敷地面積　7,945.70 ㎡ ○ 建築面積　2,381.92 ㎡ ○ 延床面積　3,096.38 ㎡ ○ 収蔵作品数　4,032 点	○ 平成２年４月 26 日開館（26 年経過） ○ 敷地面積　5,585.33 ㎡ ○ 建築面積　1,093.09 ㎡ ○ 延床面積　1,697.97 ㎡ ○ 収蔵作品数　968 点
○ 入館者数　16 万７千人（H27） ピークは平成２年の 45 万８千人（東山魁夷館との合計） ○ 管理運営：（一財）長野県文化振興事業団 平成 18 年４月～指定管理 館長以下 14 名体制 うち学芸員７名（正規２名）（H28.4.1 現在） ※条例上は、東山魁夷館と呼称している部分を含め、長野県信濃美術館である。	

〈主な課題〉

① 善光寺に隣接する有利な立地条件を、集客につなげられていない。

② 管理棟、展示棟の老朽化が著しく、狭隘でバリアフリー化も遅れているため、幅広い年代層に美術に親しむ機会を十分提供できていない。また、東山魁夷館は開館から 25 年経過し、設備の老朽化や内外装の修繕、一層のバリアフリー化への対応等が必要となっている。

③ 全国一の数を誇る県内 105 館の美術館の中核を担える体制になく、信州の多様な文化芸術の魅力を十分に発信できていない。

④ 学芸員が不足しており、他の美術館の支援や調査研究等を十分に行い得ない。

⑤ 展示室が狭く、大規模企画展の開催が困難。また、老朽化等により、貴重な美術品の管理に支障を来すおそれがある。

⑥ 信州ゆかりの貴重な収蔵作品の展示の機会を十分に確保できていない。

〈検討経過〉

長野県信濃美術館整備検討委員会（委員長：竹内順一東京藝術大学名誉教授）

第１回整備検討委員会 平成 27 年４月 23 日	・信濃美術館の概況と課題 ・委員会での検討事項 ・検討スケジュール ・信濃美術館のコンセプト等
５月 25 日	信濃美術館協議会との意見交換
５月～６月	中高生アンケート（中学生 558 人、高校生 76 人）
６月　７日	美術関係者との意見交換
第２回整備検討委員会 ６月 18 日	・信濃美術館整備検討の今後の進め方 ・信濃美術館整備検討に係る意見聴取等の状況 ・信濃美術館整備方針（コンセプト、役割・機能） ・新美術館に関する基本戦略 ・作業部会での検討事項
７月　６日 ～８月 21 日	整備方針（素々案）への意見募集（19 件）
第１回作業部会 ７月 15 日 第２回作業部会 ９月　９日 第３階作業部会 10 月 14 日	・信濃美術館の現況と課題 ・既存施設との関係 ・立地条件を活かした整備及び施設の配置 ・施設の規模 ・レストラン・ショップの扱い ・設計者の選定方法
第３回整備検討委員会 11 月 11 日	・信濃美術館整備に関する検討状況（中間整理） ・施設整備に関する作業部会の検討結果報告
11 月 16 日	信濃美術館協議会との意見交換
第４回整備検討委員会 平成 28 年１月 13 日	信濃美術館整備方針の検討
１月 14 日	教育委員との意見交換
２月　４日 ～３月４日	整備方針（案）への意見募集（46 件）
第５回整備検討委員会 ３月 23 日	・整備方針（案）へのご意見と委員会としての考え方 ・今後の進め方 ※知事に「信濃美術館の今後のあり方及び整備に関する基本方針(案)」を提出

6月 17 日	長野市第二地区住民自治協議会との意見交換
6月 30 日	経済団体への説明
7月 26 日	信濃美術館協議会との意見交換
第6回整備検討委員会 9月 12 日	「信濃美術館の今後のあり方及び整備に関する基本方針」の決定

長野県信濃美術館整備検討委員会 委員名簿

【委員会】

氏名	役職等
委 員 長　竹内　順一	東京藝術大学　名誉教授
副委員長　金井　直	信州大学人文学部　准教授
赤羽　直美	一般社団法人長野県建築士会　景観整備機構委員長
上山　信一	慶應義塾大学総合政策学部　教授
菅野　幸子	独立行政法人国際交流基金　コミュニケーションセンター プログラムコーディネーター
黒田　和彦	長野市　副市長
輿　恵理香	信州大学大学院総合工学系研究科　大学院生（公募）
近藤　誠一	一般財団法人長野県文化振興事業団　理事長
堀内　美紀	長野市立三陽中学校　教諭
益山　代利子	松本大学総合経営学部　教授
柳沢　秀行	公益財団法人大原美術館 学芸課長・プログラムコーディネーター
山岸　恵子	画家（公募）
特別委員　橋本　光明	長野県信濃美術館　館長

【作業部会】

氏名	役職等
部 会 長　金井　直　＊	信州大学人文学部　人文学科　准教授
赤羽　直美＊	一般社団法人長野県建築士会　景観整備機構委員長
池田　謙司	長野市都市整備部　公園緑地課長
佐野　千絵	東京文化財研究所　保存修復科学センター　副センター長
柳沢　秀行＊	公益財団法人大原美術館 学芸課長・プログラムコーディネーター
若麻績　敏隆	善光寺白蓮坊　住職 画家
特別委員　橋本　光明＊	長野県信濃美術館　館長

＊信濃美術館整備検討委員会兼務

〈基本構想策定に向けた意見交換等〉

○県民との意見交換会
開催日　平成 28 年 10 月　8 日：南信地域（伊那市）
10 月　9 日：東信地域（佐久市）
10 月 14 日：県政タウンミーティング（長野市）
10 月 15 日：中信地域（松本市）

○美術関係者との意見交換会
開催日　平成 28 年 10 月 15 日

○長野市第二地区住民自治協議会との意見交換
日時　　平成 28 年 10 月 21 日

○教育委員との意見交換
日時　　平成 28 年 10 月　6 日

○経済団体への説明
日時　　平成 28 年 10 月　4 日、10 月　6 日、10 月 11 日、11 月　1 日